

# プラネタリウムCDコンサートの運営と問題点

山切 美澄\*・馬越 聡子\*

Some Problems on Planetarium CD-Concert as an Activities of Museum.

Yoshizumi Yamakiri and Toshiko Umagoe

郷土の自然や科学に親しむ風土づくりの一つとして、訪ねよう科学の世界「プラネタリウムCDコンサート」を今年度初めて実施した。これは高校生以上の人たちを対象にした企画で、音楽を楽しみながら星空を見上げ、壮大な星の世界に関心をもってもらうという趣旨で始めたものである。結果としては、若い人たちを中心に人気が高くこれを素材として博物館の普及活動の新しい行き方を検討することができるように思われる。このような視点も混じえながら、今までのコンサートのあり方をふり返り、問題点を整理しておきたい。

## 1. 年間の計画

コンサートは、年度始めと終わりの月を除き、毎月1回、土曜日の午後4時～4時50分、プラネタリウム定時投影後に実施した。入場料は無料である。土曜日に計画したのは、勤めの帰りに気軽に立ち寄ってもらいたいという配慮からである。

下に年間計画表を示した。コンサートは、この年間計画表にもとづいて実施することになるが、各回とも音楽の鑑賞を主体に、星の解説と星についてのトピックを折り込むことにした。

音楽については、一年間を通してできるだけ広いジャンルを盛り込むようにしたが、ロック調やディスコ調のような激しいリズムの曲はプラネタリウムの投影に合わないので省いてある。

星座の解説については、コンサート当日の夜8時ごろの星座の見方に主眼をおいた。

星についてのトピックは、星の世界について興味・関心が深められるような題材を選んだ。

表1. プラネタリウムCDコンサートの年間計画

回	実施日	音楽の鑑賞	星座の解説	トピック
第1回	5月14日	ピアノ曲特集	春の星座	星座の起こり
第2回	6月25日	山下達郎特集	春と夏の星座	太陽の南中高度
第3回	7月9日	ジャズとフュージョン(国内編)	南半球の星空	奄美大島の犬飼い伝説
第4回	8月20日	クラシック特集	夏の星座	惑星の紹介
第5回	9月17日	ビートルズ特集	夏の星座と火星	火星の大接近
第6回	10月22日	ジャズとフュージョン(国外編)	秋の星座と木星	黄道十二星座
第7回	11月19日	クラシック特集	秋の星座と星雲	アンドロメダ姫物語
第8回	12月24日	クリスマス特集	秋と冬の星座	星雲と星団
第9回	1月14日	ユーミン特集	冬の星座	南極老人星物語
第10回	2月18日	リクエスト特集	冬と春の星座	四季の星座の変化

## 2. 構成

コンサートをまとめたストーリー性のあるものにするために、表2のようなパターンで構成することにした。

これに、次のような順序で肉づけしていく。

### (1) BGM

BGMは、入場者の気分を盛り上げる導入として、あるいは解説に耳を傾けさせる上で効果的である。特に、a～cは落陽から星が輝き始めるまで情景がしだいに移り変わっていくところであるから、情景の変化に合った曲を選ぶことが大切であろう。

### (2) 音楽

最も時間がかかるのが、コンサートで聴かせる曲の選曲である。誰もが知っているような曲だけを聴かせるような選曲であれば簡単であるが、これではやがて飽きられてしまう。

ヒット曲を半分ぐらいに抑えて、これに、意外と知られていないような良い曲や星空に合った曲を探しだして、紹介するような気持ちで盛り込むことにしている。そうすることによって、音楽に詳しい人でも、あるいはそうでない人でも十分に楽しんでもらえるからである。

選曲の仕方は、ふつう次のような手順で進めていく。

- ① クリスマス特集のようにアーティストが限定されない場合は、まず、アーティストを選ぶ。
- ② 選んだアーティストについての情報を集める。
- ③ コンサートでつかう曲をしばり込んでいく。
- ④ アーティストの人となりや曲の情景についてまとめておく。

### (3) 星座の解説

コンサート当日、夜8時ごろのおもな星座や惑星の探し方について、5分ぐらいで解説できる内容にまとめる。

右に一例として、春の星座の探し方を示した。

表2. 構成のしかた

- |    |              |
|----|--------------|
| a. | オープニング (BGM) |
| b. | 落陽 (BGM)     |
| c. | 星座の解説 (BGM)  |
| d. | 音楽           |
| e. | トピック (BGM)   |
| f. | 音楽           |
| g. | 夜明け (BGM)    |
| h. | エンディング (BGM) |

#### 春の星座の探し方

1. 北の空には北斗七星が見えます。北斗七星のひしゃくの曲がった柄を南に延ばした「春の大曲線」にそって、おうし座のアルクトゥルスとおとめ座のスピカを見つけよう。二つとも1等星です。
2. 「ししの大がま」を見つけよう。天頂から少し南西にいったところに、6個の星が?マークを裏返しにした形に並んでいます。一番明るい星をレグルス。少し暗い感じがするが、1等星です。レグルスから東の方に2等星のデネボラがあります。
3. おうし座のアルクトゥルス、おとめ座のスピカ、しし座のデネボラの三つの星がつくる三角を「春の大三角」といいます。春の星座を知る手がかりになるのでおぼえておこう。

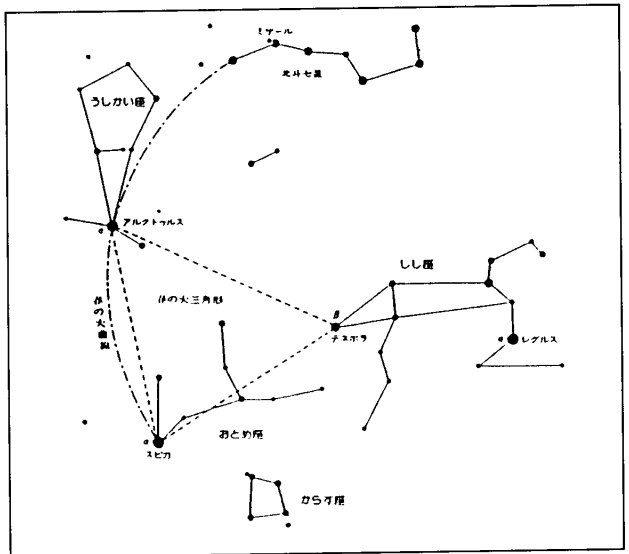


図1. 星についてのトピックの一例(第1回)

#### (4) トピック

季節の星空にあった話題を選ぶことになる。第5回コンサートでは、17年ぶりに大接近した火星をとりあげた。大きな天文現象についての話題がない場合は、神話・伝説などをとり上げた。ギリシャ神話などは喜ばれるようである。必要に応じてスライドを準備することになる。

#### (5) 星空の演出

日暮れと夜明けのシーンは毎回決まった演出の仕方であるが、技術的にむずかしいところもあるので何回もリハーサルを積んでおく必要がある。

たとえば、日暮れでは次のようになる。日が沈むと、夕焼けが広がっていくが、やがて薄暮となって夕焼けの色があせてくる。昼のスカイラインから夜のスカイラインに変わり、それも見えなくなるころ、夜8時ごろの星空があらわれてくるように演出する。

コンサートでメインとなるdとfについては、季節や星についてのトピック、曲の内容を考えながら演出を試みることになる。第3回コンサートでは、南半球の星空を投影した。大小のマゼラン星雲の動きを追いかけながらジャズとフュージョンを楽しんでもらい、好評であった。

#### (6) リハーサル

一通りの内容がまとまると、コンサートまでに1～2回リハーサルを行う。ここでは、全体的な流れや解説の仕方、プラネタリウムの操作など、おもに技術的な面の調整を行うことになる。

### 3. 広報と応募の方法

#### (1) 広報

実施要領とポスターを報道機関と鹿児島市内にある各高等学校に送って、広報をお願いしている。博物館内にもポスターを掲示し、さらに年間計画を書いたパンフレットを作って、関心のある人に配布している。

#### (2) 応募の方法

第1回コンサートでは、先着順に入場してもらったが、入場できない人も多数でた。中にはわざわざ遠方から来た人もあって気の毒であった。そこで、第2回から往復はがきで申し込んでもらうことにした。往復はがきに、住所・氏名・年齢を書いてもらい、同伴者がいるときは3名まで併記できるようにした。この方法は、広く県民によびかける上でよかったと思う。(枕崎, 川内, 国分, 鹿屋等からの来場があった。)

#### (3) 入場券の発行数

応募期間中に申し込んだ往復はがきを先着順に重ね、番号を記入する。次に返信用のはがきに入場券を印刷し、返送する。これをコンサート当日持参してもらうことになる。

入場券は、プラネタリウム室の定員(125名)と当日の欠会者、コンサートの内容を考えて、150名近く発行している。

また、入場券を発行できなかった人には、次回の案内をそえてお断りの返事を出している。

表3. 応募者数と入場者数との関係

回	応募者数	入場券(人数)	入場者数
第1回	235	---	155
第2回	645	149	122
第3回	106	106	63
第4回	207	154	95
第5回	338	155	120
第6回	218	155	87
第7回	259	161	105
第8回	336	150	112

## 第2回

プラネタリウムCDコンサート

## 入場券

(名)

6月25日(土)《山下達郎特集》

開場：午後3時50分

開演：午後4時

今回は、プラネタリウムCDコンサートにご応募いただきまして有難うございます。このハガキが入場券になりますので、当日ご持参・ご提示下さい。

ご注意

- ★午後4時以降は入室できません。  
早めにご来場下さい。
- ★幼児の同伴はご遠慮下さい。
- ★飲食物は持ち込めません。
- ★筆記具をお持ち下さい。

☆☆☆ どうぞお楽しみに！ ☆☆☆

**鹿児島県立博物館  
プラネタリウム室**

連絡先 ☎0992-23-6050

第9回プラネタリウムCDコンサートにご応募いただきまして、有難うございます。

誠に申し訳ございませんが、今回は応募者多数のため、先着順にて定員で締め切らせていただきました。悪しからずご了承ください。

なお、次回は今年度の最終回となります。

～第10回(最終回)のお知らせ～

★実施日 2月18日(土)

★応募期間 2/1～2/7

★内容 リクエスト特集

(今までのコンサートの  
集大成です。)

**鹿児島県立博物館**

プラネタリウム室 ☎(0992)-23-6050

## 5. 実施結果と今後の問題点

初めての企画であったので、毎回、入場者にアンケートをお願いし、改善につとめながら運営してきた。このアンケートなどを中心に、問題点を明らかにしてみたい。

### (1) コンサートの企画について

現在、若い人たちを中心に関心が高い。それは星と音楽が合うということのほか、生活の便利さのために街全体が明るくなって星と接する機会が少なくなっているからではないだろうか。

右の表4にならべたような感動がどのアンケートにもみられた。これから星への深い興味や関心が生まれてくることを期待したい。

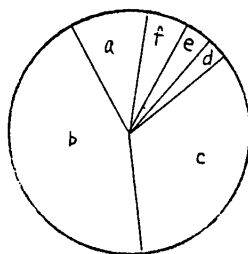
表4. 第1回アンケート結果から

- 音楽を聴きながら星座をみると気持ちいいです。
- 普段と違う世界にふれられてよかった。
- 大変良かった。久しぶりに星を見た感じです。
- 天気の良い日に、ぜひ星をみてみたい。
- 空にあんなに星があるなんて本当に驚いた。
- 勤めの帰りに星を見上げる楽しみがふえた。
- 鹿児島でこんなに星が見える所に行ってみたい。
- 幼い時分、庭の涼み台で星を見上げるものでした。

(2) 入場者の年齢について

図2は、第2回コンサートでとったアンケートの結果である。これによると二十代の人たちで占められていることが分かる。この傾向はどの回も同じようである。もっと高い年代の人たちにも利用してもらうために、好きな音楽のジャンルを研究する必要がある。他県では、このような催しに、映画音楽やシンセサイザー、童謡などを折り込んでいる所もある。

図2. 入場者の年齢 (第2回)



- a. 16~20
- b. 21~25
- c. 26~30
- d. 31~40
- e. 41~50

(3) 実施回数や時間帯について

博物館を気軽に利用してもらうには、無料で、土曜日の午後、勤め帰りの時間帯を利用するのが良いのではないだろうか。また、コンサートの準備では、選曲に10日以上かかり、さらにリハーサルや資料づくりもあるので、月1回ぐらいが適当であろう。

表5. 第2回アンケート結果から

- 月1回だけでなく、もっとふやしてほしい。
- 月2~3回やったらいいが。
- 午後2時ごろから2回に分けてやってほしい。
- 日曜日にやってほしい。
- あっという間に終わった感じ。もっと長くしてよい。

(4) 星座の解説とトピックについて

表6のように、アンケートの中で最も多い要望は「星座の解説をもっと詳しく、もっと長く」である。現在、50分の催しの中で、星座の解説に5分程度、トピックに5~10分程度をあてている。ここでも、星の世界について知りたいという気持を強く感じた。

表6. 第2回アンケート結果から

- 星空についてもっと詳しく説明してほしい。
- 星座の説明をもっと長くやってほしい。
- もっとほかの星座も教えてほしい。
- 星座についてくり返し説明してほしい。
- ギリシャ神話をもっとききたい。
- 星座の物語はいかがですか。

(5) 曲についての要望

入場者からさまざまな曲について要望が出されているが、たくさんのCDを一度にそろえることは困難であるので、計画的に整備していきたい。

表7. コンサートで使うCDの枚数

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
5	5	4	1	6	4	2	5

(6) 入場券の発行について

表9のように、毎回応募しても採用されないのに、空席が目立つという不満がある。一つには、1枚のはがきで4名まで申し込めるようになってきているが、4名申し込んだはがきの出会率がよくないようである。1枚のはがきで2名程度まで申し込めるようにするとともに、時刻を

表8. 第5回アンケート結果から

- コンサートに何回来ましたか？

初めて	2回	3回	4回	5回
80%	15%	4%	0%	1%

表9. 年6回アンケート結果から

- 毎回応募して初めて当りました。空席があるのなら入場させる方法を考えて下さい。

区切ってキャンセル待ちの人に入場させることも検討してみたい。

(7) 入館者増対策としてのコンサート

現在までのところ、コンサートの実施がプラネタリウム定時投影の入場者増につながるような徴候はまだあらわれていない。表10の第5回コンサートのときのアンケート結果で、定時投影をまだ一度も見たことがない人が38%もあった。その中で場所さえ知らない人が43%もあった。回を重ねていけばやがて入館者増につながるものと期待している。

(8) 報道機関による広報の必要性

右の表11は、第1回コンサートでとったアンケートの結果である。約半数の人がこの企画を新聞で知っている。これからみてこのような事業は新聞などの報道機関の協力なしには成しえないことがわかる。報道するに足りうる内容の充実をめざしていきたい。

表10. 第5回アンケート結果から

●プラネタリウムの投影について伺います。

- ①プラネタリウムの投影を見たことがありますか？  
ある 62%    ない 38%
- ②上の①で「ない」と答えた方
  - ・普段の投影を見たいと思いますか。  
思う 97%    思わない 3%
  - ・プラネタリウムの場所を知っていましたか。  
今回初めて知った 43%  
以前から知っていた 57%

表11. 第1回アンケート結果から

●あなたは、この企画を何で知りましたか。

新聞	ラジオ	テレビ	友人	博物館 ちらし	その他
49%	7%	14%	25%	5%	0%

5. 結 び

コンサートは、若い人たちに支えられて運営してきた。入場者がもっと幅広い年代の人たちに広がってくれたらもっとよかったと思っている。しかし入場者の多くの人が星を見て感動し、「星座についてもっと知りたい」と述べていることから、コンサートのねらいは成功したとみてよいのではないだろうか。今後は、天体観望会などを通して、もっと興味・関心を深めていきたいものだと思っている。

星と音楽好きのあなたへ

満天の星空の下、すてきな音楽を。

鹿児島県文化センターのプラネタリウム

ム室で十四日、「ピアノ曲集」ジャズ

とクラシックを兼ねて「初のプラネタリウムCDコンサート」がある。

高校生以上を対象としたら

よっと大入向けの企画。音楽

に敏感な世代に、ロマンあふ

れる星の世界を知ってもら

うと、昨年からの職員が準備を

進めてきた。鹿児島市内では

お目にかかれぬ六等星以上

なら、約三千個の星を身し出し

ながら、CDの鮮明なサウンド

が四個のスピーカーを通して

流される。響の星座や星に

まつわる物語を紹介するコー

ナーもある。

選曲はプラネタリウムの女

子職員によるもので、落ち着

いた感じの曲が中心。今回は

ホロヴィッツ、山下洋輔、キ

ースジャレットなどのクラシ

ック、ジャズの演奏家の曲を

取り上げる。来年一月までに

計十回開く予定で、山下洋輔、

松任谷由実といった特定アイ

ティストの特集、クリスマス

やリクエスト特集と「ニュー

も盛りだくさん。山切美澄学

芸主事はこれをきっかけに、

同好会ができるなど、天文マ

ニアの輪が広がれば」と願

っている。開演は午後四時、

入場無料。問い合わせは、鹿

児島県立博物館(099550)へ。

ジャズ 14日、プラネタリウムCDコンサート クラシック